

審判講習会 参加報告書

平成 29 年 8 月 12 日

報告者 池田 隼人

この度参加しました、審判講習会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	第 55 回四国中学校総合体育大会
参加者 (報告者)	池田 隼人 (所属カテゴリー) 実業団
期 日	平成 29 年 8 月 5 日 (土) から 平成 29 年 8 月 6 日 (日)
会 場	高松市香川総合体育館
講 師	田中 豊弘
参加者	
報告① ■ ゲーム	<p>■ ゲーム 主審：池田 隼人 副審：久樹 コート主任：田中 豊弘 氏</p> <p>■ 講習内容 及び ミーティング内容 三里(高知 1 位) 対 丸亀南(香川 2 位)の対戦 プレゲームカンファレンスでは、悪い手の使い方、身体の寄せ方をしっかり判定し、基準を示して 1 ゲーム通せるよう協力する事と、新 2PO ではトレイルレフリーの判定が多くなる為、プレイに応じてアングルや判定する位置に気をつける事を確認した。 ゲーム序盤から終始、丸亀南の方がディフェンスが激しい為、プレゲームカンファレンスで話した通り、悪い手の使いや、頑張り過ぎて悪い身体の寄せ方などが多く判定したつもりであったが、判定しきれなかった事が反省と、ミーティングでお話頂いたルールにのった判定をもっと理解し、今後の判定に繋げなければいけないと痛感した。</p>
報告② ■ ゲーム	<p>■ ゲーム 主審：谷 隆生 副審：池田 隼人 コート主任：田中 豊弘 氏</p> <p>■ 講習内容 及び ミーティング内容 香東(香川 1 位) 対 勝山(愛媛 1 位) プレゲームカンファレンスでは、ガイドラインに沿った判定を 1 ゲーム一貫して通すようにする事、新 2PO の再確認をし、お互いの位置、視野を確認して協力する確認をした。 ゲーム序盤から悪いハンドチェック等をお互いに細かく判定していく事ができた為か、大きなトラブルもなくクリーンな試合になった。 反省では、TO にもっと目を配り、注意しておけば防げるミスもあったのでその事も踏まえ、今後、次のステージに向かう為に必要な技術等を細かくお話頂いた。</p>

所感

もう1度ルールブックを見返し、正しいルールの解釈、適用を出来るように準備する事、判定する際により良いアングル、位置で判定できるように動きの工夫や、先を見越した動きを出来るよう尽力したいと思います。

まだまだ課題が多く1つ1つをしっかりこなしてステップアップしたいです。

今回学んだ事を、県内で伝えられるよう今後も尽力して参ります。

この度は本当に有難うございました。

審判講習会 参加報告書

平成 29 年 8 月 7 日
報告者 川村 貴昭

この度参加しました、審判講習会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	平成 29 年度 四国中学総合体育大会
参加者 (報告者)	川村 貴昭 (所属カテゴリー) クラブ連盟
期 日	平成 29 年 8 月 5 日 (土) から 平成 29 年 8 月 6 日 (日)
会 場	高松市香川総合体育館
報告① ゲーム	<p>□ゲーム 日時 8 月 5 日 (土) 12 時～トスアップ 城東 (愛媛県) 対 高知南 (高知県)</p> <p>主審 石川 数志 氏 (香川県) 副審 川村 貴昭 (報告者) 主任 田中 豊弘 氏 (講習会講師)</p> <p>■ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none">・プレ・ゲーム・カンファレンス <ol style="list-style-type: none">1、プライマリーの確認 (そのプレイはどのレフリーがどのように判定すべきか)2、両チームの特徴 (キーマン) を共有3、中学生特有のプレイについて確認 <ul style="list-style-type: none">・試合後 (主任より) <ol style="list-style-type: none">1、 プライマリー (そのプレイは自分が判定すべき or そのプレイは相手に預ける方がいい) についての意識を今後いっそう整理していくべき。相手レフリーの状態も把握しながら、自分が判定をするべきプレイかどうかの決断をしなければならない。2、 シリンダーの概念に照らし合わせて、もう少し笛を挟んでもいい局面があったように感じる。プレイのインパクトも大事だが、ベーシックに判定をすることも重要。3、 プレイオンかどうかの判断も中学生のバスケットボールでは重要。影響をとらえ、コールすべきかどうかの決断を。
報告② ゲーム	<p>□ゲーム 日時 8 月 6 日 (日) 9 時 30 分～トスアップ 宿毛 (高知) 対 石井 (徳島)</p> <p>主審 若山 輝紀 氏 (徳島県) 副審 川村 貴昭 (報告者) 主任 石川 数志 氏 (香川県)</p> <p>■ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none">・プレ・ゲーム・カンファレンス

	<p>1、お互い四国大会を勝ち抜いてきたチームで、全国大会を懸けた重要なゲーム。どんなことがあっても、最後まで丁寧に、積極的にレフリーとして関わっていくことを共有。</p> <p>⇒公平性、一貫性を強く意識する。</p> <p>2、TOクルーとの業務、連携の確認。</p> <p>⇒試合前にコミュニケーションをとる。試合中もアイコンタクト、声かけをしながら、チームとして試合に臨む</p> <p>3、両チームの特性を共有。</p> <p>⇒特筆する点として、両チームともにボールプレイ（ドライブイン）をしっかりとらえていきたいことを提案。プラス意識付けとして、プレイヤーの意図を考え、判定の材料にすることを確認。</p> <p>4、メカニクスの確認</p> <p>⇒アウト・オブ・バウンズの協力、プレイの引継ぎについて確認。</p> <p>・試合後（主任より）</p> <p>2人の協力をもってしっかりと終わることができた試合だった。判定については、特にこのゲームではミドルドライブを2人でどのようにとらえるべきかが、判定の難しさを象徴していた。アングル、位置取りを工夫しながら、より説得力のある判定をすることが重要と感じた。判定については、トラベリングについて、コーリング・ガイドラインに基づいた一貫した判定が大事。足元のずれ、遅れをしっかりと見極めることが大事と改めて感じた。</p>
<p>所感</p>	<p>レフリーとして四国中学総体に初めて参加させていただいた。協会からの派遣審判員と言う形で、自分の所属する連盟を越えて挑戦させていただいた。そこで新しい学び、気づきを得ることができた。</p> <p>今大会には、四国から集まった中体連所属のレフリーの方々が一同に会し、普段なかなか接する機会がなかった方々と交流することができた。真剣に取り組む風土、雰囲気、改めて刺激をいただいた。</p> <p>カテゴリーの特性として、中学生のプレイ、チームの特性、指導の特性、試合で起こりうる場面、雰囲気など、実技はもちろん、ミーティングの参加や観戦を通じて、たくさんの学びがあった。また同時に、カテゴリーに関わらず、同じバスケットボールであるということ（≒レフリーとしてどんな試合でも同じように役割を果たすこと）にも改めて気づかされた。この2つをもって、今後の審判活動に活かしていきたい。</p> <p>そして、四国ブロックからたった2チームしか全国大会に出場できないこと、その枠を勝ち取るために懸命にプレイする中学生、歓喜や悔し涙などの感情にも直に触れた。今大会に限らず、改めて審判員として果たす役割の大きさを実感することができた。</p> <p>最後になりましたが、今大会に派遣してくださった愛媛県協会の方々、あたたかく迎えてくださった四国中体連のレフリーの方々、素晴らしい今大会に関わったすべての皆様に深く感謝申し上げます。私の報告とさせていただきます。本当に有難うございました。</p>